


シリア難民

A16LA030 岡本理子



シリア難民

- 2011年3月に中東諸国で起こった民主化要求運動（アラブの春）以降、内戦が続くシリアから国外に逃れた人々。
- シリア難民の総数は489万8353人
- 主な避難先
 - トルコ285万4968人
 - レバノン101万1366人
 - ヨルダン65万5895人
 - イラク23万836人
- 国内避難民は632万5978人
- シリア国内では1350万人が人道支援を必要としている（国連人道問題調整事務所、2017年1月31日）。
- シリア国内では69%が極度の貧困状態での生活を強いられている。また、食糧価格は紛争前の水準より平均8倍も高騰し、食費が年収の半分以上を占める家庭は90%にも上る（UNHCR日本、2018年3月9日）。



シリア難民のキャンプ位置と人数


- 赤い丸、それぞれの国の難民キャンプの位置と難民の数
オレンジの丸：キャンプの位置のみ
- 大きな難民キャンプのほとんどがアフリカや南アジアにある。
- 400万人以上の難民が近隣のトルコ、レバノン、ヨルダン、エジプト、そしてリビアに逃れた。（データは2015年9月中旬のもの）



引用：Eziジャパン シリア難民マップ- キャンプ・人数規模・流入ルート


難民キャンプの生活

- 難民キャンプの多くは一時的な住居と言えるものではない。
- 多くは、砂漠地帯にあるため寒暖の差が激しい。
- 暖房に使用する燃料が不足して使えなかったり毛布が足りないなど、寒さをしのぐ生活を強いられることも。
- 食料は配給
- 十分な教育が受けられない
- 場所によっては、キャンプ場がフェンスなどで囲まれたうえ武装した警官に1日中、監視され自由に外出することができない現場の場所も。
- 身体的・精神的な医療サポートの不足
- 売春・麻薬取引を含む犯罪率の増加



都市化した難民キャンプ

- ザアタリ難民キャンプ**
 - シリア国境から約10キロの荒野にあるヨルダンのザアタリ難民キャンプ。
 - 南北に2キロ、東西に3キロの敷地に仮設住宅やテントがひしめく。
 - 2012年7月に設立され、約8万人が暮らす世界最大のシリア難民キャンプ。
- メインストリートの「シャンゼリゼ通り」
- シリア難民みずからがはじめたマーケット、
- キャンプ全体に約2500店の店が軒を連ねる。
- 苦しい生活環境、貧富の差も
- しかし、ほとんどの難民は今もプレハブ造りの狭い仮設住宅に家族が身を寄せ合って暮らす。食べていくのがやっとの人も少なくない。
- 独自の市場経済が生まれたことで、難民間で貧富の格差も出てきた。商売に成功し、仮設住宅を増築したり冷蔵庫や洗濯機をそろえたりする人もいる。



まとめ

- 内戦を逃れ、近隣諸国にたどり着いたシリア難民たちの難民キャンプでの生活環境は、必ずしも快適とは言えない。
- ザアタリ難民キャンプのシャンゼリゼ通りのような市場が発達したところもあるが、多くの人が生活水準の低い暮らしをしている。

【参考文献】

- AAR Japan (2017) 「シリア最新情報：シリア難民・避難民数アップデート（1月31日、国連人道問題調整事務所）」 http://www.aarjapan.org/activity/news/2017/0216_2248.html (2018年7月3日閲覧)
- Eziジャパン (2015) 「シリア難民マップ- キャンプ・人数規模・流入ルート」 <http://www.ezi.com/news/details/7772/> (2018年7月4日閲覧)
- 朝日新聞 (2017) 「イシババ Market-1」 「シャンゼリゼ通り」 難民が営む商店街 ヨルダン」1月1日朝刊外報。
- 国連UNHCR協会 「ザアタリ難民キャンプに見るシリア人の姿」 <https://www.unhcr.org/ja/news/2018/07/180309.html> (2018年7月4日閲覧)
- UNHCR日本 (2018) 「レズリリス」 7年のシリア戦争：「遠方なき人々の悲劇」 <http://www.unhcr.org/ja/180309.html> (2018年7月5日閲覧)